

母の悲しみ 感情豊か

「命のバトン」語り、演奏で表現

福井で公演

福井市のNPO法人「命のバトン」の活動を題材にした語りと楽器による公演「防災一人語り」が、防災センターであった。娘を亡くした母親の心情や活動をクラリネット演奏などで表現し、集まった人たちに命の大切さを伝えた。

嶺北に住むか勤務する八十人が参加。東京の「防災一人語り」推進グループのメンバーで、歌手の岩田瞳さんと、クラリネット奏者の中島健太さんが出演した。

物語は、体育祭中に突然倒れて亡くなった十六歳の

娘を思う母親の目線で進んだ。母親の悲しみや、それを乗り越えて自動体外式除細動器(AED)を広める活動をする様子を、岩田さんが感情豊かに語り、歌で表現。福井市の児童クラブ支援員中村浩美さん(四七)は「今、自分の子どもは元気に過ごしているが、同じことがあったらどんな気持ちになるのかと考えた」と話した。

公演は、同市順化二丁目の寄合カフェ京町Y・Yと、同市のフェニックス・プラザでも行われた。

(坂本碧)



娘を亡くした母親の思いを表現する岩田瞳さん(左)と中島健太さん。福井市防災センターで